

いわき湯本病院 小峠 恒男(臨床検査科長)

功 績 2012年以來7年にわたり、臨床検査科業務の効率化につとめ、検査精度の向上とともに主要消耗品経費である検査試薬費の削減に努力した。結果、精度の向上はもとより、2011年以前の費用に対し、患者一人当たりの平均試薬単価は70.8%にまで削減され、病院運営に大変な貢献をしている功績。

推 薦 者 垂石修二(経理係長)

推 薦 理 由 被推薦者は、日頃から臨床検査の主要ポイントである検査データの精度向上に大変な努力をしており度重なるA評価を獲得しているが、精度の管理とともに機器の運用に綿密な注意を払った結果。試薬経費を年々減少させることに成功し、実施単価は昨年度は6年前の30%減を達成した。これらの努力は診療の信頼度を高めるとともに病院運営に多大な貢献をしたことになり、この努力を理事長賞候補として是非とも推薦したい。

内 容

今日の臨床検査は、その多くが自動化された器械による測定が主力ではあるが、測定器の運用には、使用者の綿密な精度管理が信頼できる結果を導き出す主要ポイントになる。このポイントをクリアするには、測定に用いる試薬の調製管理における無駄省きを含めた緻密な運用が重要である。

被推薦者小峠恒男科長は、2011年赴任以来検査精度の一層の向上とともに臨床検査業務の主要試薬経費の削減に努めてきた。検査精度については毎年日本臨床検査協会の精度検定に応募しているが、最近3年は毎年A評価を取得し、日々の臨床現場に確実な情報を提供し診療を支援している。この精度の向上のための日々の綿密な検査機器の管理は、連動して検査試薬の効率的使用につながり、結果試薬経費の大幅な節減を可能にした。

試薬経費を見ると年間総額は2011年度は検査総数8,138件で約876万円ほどであったものが年々実施件数は増加し、2017年度は9,829件で1,691件の増加が見られたにもかかわらず、総購入経費は約742万円に減額できた。この数値をもとに算定した一件あたりの平均実単価は2011年は1076.05円であったものが、2017年には762.12円となり、これは2011年度単価の70.8%になる。最近6年の間に約30%の節減を達成したことになり、病院運営に大変な貢献をした。